

栃木県 追補

著者	福田 廣一
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	60
号	2
ページ	10
発行年	2013-03-01
URL	http://doi.org/10.24517/00053498



9. 栃木県 追補

福田廣一（〒321-0973 宇都宮市岩曾町606 栃木県立宇都宮北高等学校）

(A) 植物誌

栃木県では栃木県立博物館の研究員をはじめ県内外の専門研究員の協力を得て栃木県自然環境基礎調査を実施してきた。その結果が2002年3月に『とちぎの変形菌類・菌類・地衣類・藻類・蘚苔類』として刊行されたのは既報の通りである。さらに、2003年3月には『とちぎの植物Ⅰ・Ⅱ』と題して維管束植物のフロラについて約43000点の証拠標本を基に研究史等も含めた報告がされた。これにより待望の総合的な植物誌が発刊されたことになる。これらの報告書を見るに、まだまだ調査の途に就いたばかりの分類群もあるが基本的な調査の進め方は確立されつつあるので、今後さらなる各分類群の継続的調査がより重要となる。

(B) 研究機関

日光市花石町に東京大学理学部附属植物園日光分園がある。東京都文京区にある小石川植物園の分園で、おもに高山植物や寒冷地植物など約2000種が植栽されている。地域のコナラやミズナラ、モミなどの巨木の生い茂る自然林植生の断片も窺い知れる植物園である。

栃木県では栃木県立博物館に自然史系の植物・菌類の担当学芸員を2名配置している。二人とも教員畑出身で現在の担当者は維管束植物が星直斗、それ以外の葉状植物・菌類が富永孝昭である。植生については星が兼ねている。

近年、栃木県立博物館では自然系の学芸員担当者がプロパー採用から教員畑出身者に移ることが多くなり、より専門的研究従事者の採用枠の確保への取り組みが火急のこととなっている。

(C) 標本

栃木県立博物館では継続的なテーマ等に基づき野外調査を実施し資料の収集に当たっている。毎年の採集資料点数は栃木県立博物館年報に報告されている。標本として整理された資料は収蔵庫（標本庫）に収納すると共に学会誌や栃木県立博物館研究紀要や自然部門収蔵資料目録などに記載報告されている。最新の報告として『栃木県新産大型菌類目録』（富永ほか 2011）や『維管束植物（7）小池コレクション・柏測コレクション』（小倉編 2009）などが報告されている。

なお、何年も前から収蔵庫の収納スペースが不足し、収蔵に困難を極めている状況があり、早急な対策が望まれる。良き妙案があればと思う。

(D) レッドデータブック

栃木県環境森林部自然環境課は『栃木県版レッドリスト』を平成16年8月に策定、『レッドデータブックとちぎ2005』を平成17年3月に発刊した。平成23年3月には『栃木県版レッドリスト（2011改訂版）—栃木県の保護上注目すべき野生動植物・地形・地質—』が策定・公表された。

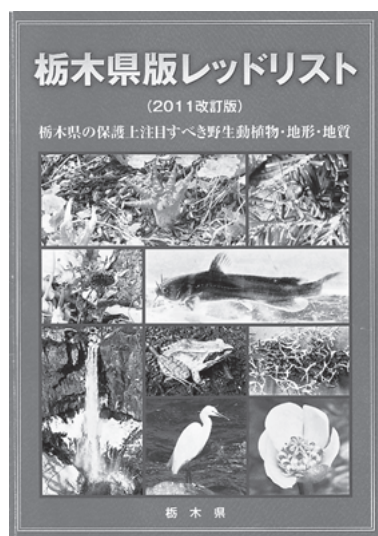


図 栃木県版レッドリスト（2011改訂版）—栃木県の保護上注目すべき野生動植物・地形・地質—

(E) 植物群落

地域調査の報告として『栃木県宇都宮市多気山持宝院境内の植物相と森林群落』（星ほか 2009）がある。県央における唯一の残存自然林（ウラジロガシ他）についての記載報告である。